

将来の遊佐町の観光のあり方は

太田 薫 議員



自分の生き方や地域に誇りを
持った交流が大切

問 統計によると現在、当

町への観光交流人口は二百万人を数えるようだが、町内においてははその実態も見えない。ればその恩恵も感じ取れない。海水浴場や鳥海登山といった夏一定期間の集中型観光ではせつかくの他の観光資源を犠牲にしてしまっている。

かつて、3兆円

産業といわれた観光は今、形態が変化し長期滞在型の癒しを求める観光となっている。

それはまさに遊佐町の特色であり、まだまだ観光産業には期待がもてる。

町内各地の観光スポットを再検討し季節にとらわれない、全天候型の癒しの観光で我が町の活性化を図れ

ないのか。

町長 観光とは字の如く光るものを観ることだと言われる。光るものとは、神社仏閣や山そのものではなく、そこに住む人々が生き生きと自分達の生き方や地域に誇りを持ち、訪れる人々に感動と共感を与えることだという指摘に私も



盛り上りをみせた夕日まつり

同感である。

観光は産業経済を含めた地域活性化の総合産業として位置づけるべきであり、また癒しを含めた人間の生きる力の回復にとって重要な要因を持っている。そういう意味からも観光による交流人口の拡大

は、地域発展の鍵を握る重要な課題であると認識している。

本町における交流人口の拡大のためには、二次交通対策やインタープリターの養成など受入体制の整備課題があるので、町民の色々なアイデアと取り組みに期待する。